



# 高陵山 光明寺 寺報 第2号

平成 28 年 10 月 1 日 発行

発行 石狩市八幡町高岡 16-2 光明寺内



## せんによ 本願寺第 25 代専如ご門主札幌別院御巡教

本山で今秋より勤まる『伝灯奉告法要』を控え、本年7月1日に本願寺第25代専如ご門主が来道され札幌別院に於いて御巡教のご縁を賜りました。ご門主が表明された消息（手紙や音信の事）の中で「現代は欲望の肥大化により便利で豊かな生活の追求はとどまる事を知らず、一方で人間関係は希薄となり新たな悩みや不安を生み出している。その結果、人の生存に関わる課題が露呈しており、この傾向は今後一層強くなるであろう。」と指摘されています。その上で「念仏者として、山積する現代社会の多くの課題に積極的に取り組んでいく必要があります、まさにこのような営みの先に自他共に心豊かに生きることのできる社会の実現に貢献する道が拓かれていくのではないかと厳しく結ばれました。思い返しますと、以前では一つ一つの事件事故の報せが世間の耳目を集め、心を痛めていたものですが、最近では社会情勢の複雑化、高速化によりその都度立ち止まることさえ難しくなっています。元来、人々は不便さの中に時間をかけることの大切さと、人と人とのつながりの尊さを身をもって学ばれ、現代に生きる私達へ相続戴いたはずが、私達は先人たちの“学び”をどこへ置き忘れてきたのでしょうか。

## 『宗門総合振興計画』負担金御協力の御礼

門信徒の皆様には寺門護持対し格別なる御高配を賜り厚く御礼を申し上げます。又、今般本山で制定されました『宗門総合振興計画』により皆様には御負担の御協力をお願い申し上げましたところ、昨今の経済事情の厳しい折に、又、昨年の本堂玄関改修工事の御負担に続く形でのお願いにも関わらず、過分なる御協力を賜りました事に深く感謝を申し上げます。本山制定の『宗門総合振興計画』とは、宗門の更なる発展を期し、今後10年間の中に迎える次の三大法要を軸とした活動計画を申します。

①【伝灯奉告法要】当派のご門主（本山本願寺住職）が24世即如上人から25世專如上人へ継職されました事を記念し本年秋より約半年に亘り本山で勤められます。

伝統奉告法要ロゴマーク

②【開祖親鸞聖人御誕生 850 年慶讃法要】浄土真宗の開祖親鸞聖人は鎌倉時代の1173年5月21日に日野誕生院付近（現在の京都市伏見区）にて日野有範の長男としてご誕生され、9歳でお得度後の生涯をお念仏流布に傾けられました。

③【立教開宗 800 年慶讃法要】現在私達が親しむ正信偈を含む根本聖典の『顕浄土真実教行証文類』が完成し浄土真宗の教義の確立を立教開宗と申し、1247年（寛元5年）の事とされています。

②と③の法要は共に平成30年以降に修行予定です。

浄土真宗の開祖、親鸞聖人は「世の中安穏なれ 仏法広まれ」と仰せになりました。昨今の宗教離れの動きは加速し、社会情勢は複雑化の一途を辿っているように思えます。物事は無くすこと、縮小することは至極簡単であり、一方で多様な価値観に溢れた現代において隆盛や継続を遂げることは大変なエネルギーを要します。しかし、取捨選択を行う上で残すべきものも必ず存在します。私たち人間は生きる上で「心のよりどころ」や、「よすが」となるもの求めていますし、それが無ければ生きていくことは出来ません。私たちの命の「よすが、頼り」は、皆様の御先祖が護られてきた「お念仏」でありましょう。今後共に宗門、寺門の隆盛を念願し、書中ではございますが、この度皆様より賜りました御協力に住職、総代一同、重ねて感謝を申し上げます。



# 宗祖親鸞聖人報恩講 御案内

平成28年10月22日(土)23日(日)

によらいだいひ おんどく  
如来大悲の恩徳は  
み こ ほう  
身を粉にしても報ずべし  
ししゅちしき おんどく  
師主知識の恩徳も  
ほね しゃ  
骨をくだきても謝すべし



齋藤断城師

親鸞聖人を開祖とする真宗寺院にとって最も重要な法要である『報恩講』を島根県善正寺、齋藤断城師(写真)を布教使に迎え別紙日程により修行致します。

京都の御本山では毎年1月9日から16日まで9日間勤められますし、全国の本願寺派(お西)の別院や寺院でも年に一度、日時を定めて勤められています。

**【1月16日】** この日は宗祖親鸞聖人の祥月命日にあたります。親鸞聖人が亡くなられた日に仏法を聴く集いを開いて、自らの信仰を確かめ学び直そうという人達が集まりました。この集いを「講」といいます。その源を訪ねれば、親鸞聖人自身が、師・法然上人のご命日に人々と寄り合い、仏法を聴き、お勤めをし、語り合っておられたことにあるといえます。

**【報恩】** 恩に報いる、恩を報らせるとも読みます。私達が生きていく上には親の恩や師の恩など、様々なご恩があります。それぞれ大切なことですが、報恩講の恩は、私達を救ってくださる仏さま(如来大悲)、そして私たちに先だって生きていかれた方々の勧めによって念仏の教えに会い、一人ひとりが生きるよりどころを教えて戴いたご恩のことです。そのご恩に報い、先達の後に続いて、いつのどこの誰にでもかけられた仏さまからの「本当の願い」を共に聞いて参りましょうという願いが、報恩講という仏事には託されているのです。

報恩講は皆様お一人お一人からお預かりした御懇念(財施)によって営まれますのでお参りをしないことは大変損なことです。2日間の日程で全5座勤まりますので、1座は必ずお参り下さい。特に2日目の朝のお参りと最後の満日中は毎年お参りが少なく寂しい限りです。総代、役員、地区当番、壮年会、婦人会と寺族一同が準備に準備を重ね皆様のお参りをお待ちしています。

第 25 代専如ご門主伝灯奉告法要団体参拝旅行のお誘い  
平成 29 年 3 月 28 日(火)～31 日(金)3 泊 4 日

法統継承式は平成 26 年に執行済みです



此度、御本山に於いて『第 25 代専如ご門主伝灯奉告法要』が厳修されますが、当寺の本山参拝日が平成 29 年 3 月 28 日(火)に決まり、他詳細も決定致しましたのでお知らせを申し上げます。主な行程としては京都市内から有馬温泉に宿泊し、神戸、大阪を 3 泊 4 日でめぐります。旅費

はお一人 15 万円で、例の如く 5 か寺(八幡町 信教寺様、厚田 本照寺様、太美 松雲寺様、新篠津 浄楽寺様、高岡 光明寺) 合同での参拝旅行です。今回は本山のご門主(本願寺住職)が即如上人から御子息へ交代される歴史的なご法要であり、前回のこととなりますと昭和 52 年にまで遡ります。又、この機会に「帰敬式(おかみそり・生前法名拝受の式)」や大谷本廟への分骨も予定しています。皆様には時節柄ご多忙の事と存じますが、どうかこの御勝縁に御参加、ご参拝を賜りますよう、謹んでご案内とお誘いを申し上げます。申し込みは 11 月 30 日迄で、詳しくは同封の別紙御案内をご参照下さい。



大谷本廟



京都円山公園の桜

第二十五代専如門主  
伝灯奉告法要  
The 25th Commemorative Ceremony of the Institutional Succession

参拝日程表	
参拝日	参拝時間
第 1 期 10月31日(土)～5時迄	第 8 期 3月27日(土)～14時迄
第 2 期 10月30日(金)～22時迄	第 9 期 3月28日(火)～6時迄
第 3 期 11月4日(土)～14時迄	第 7 期 4月11日(土)～16時迄
第 4 期 11月18日(土)～25時迄	第 6 期 4月28日(土)～6時迄
	第 5 期 5月6日(土)～16時迄
	第 10 期 5月24日(土)～5時迄

浄土真宗本願寺派 龍谷山 本願寺



北野をどり



有馬温泉



姫路城

神戸別院



神戸ポートタワーと  
ディナークルーズ



なんばグランド花月演芸  
場

春季永代経法座修行 4月23日

4月23日、春の永代経法座が三笠市より善行寺副住職の名和康成氏を御講師に迎え修行されました。一般的に永代経と聞きますと「志納金等の金品を納めることで亡き人の供養を永代に亘り寺院でして貰う事」と捉えられていることが多いようです。確かにそのような側面もありますが、本来の意味合いを考えますと、亡き御先祖の命を通し子々孫々の代に至るまで、このお寺からお念仏の声があいつまでも途絶える事無く、「永代」に亘り「お経」が読まれ続けることを願いお勤めされるのが「永代経法要」であり、その御懇念を「永代経懇志」と申します。言うなれば、御先祖がお参りをされたお寺の存続を願うことが先なのです。尚、お寺では永代経志納を賜った方の法名と俗名を永代経掛軸と過去帳に謹書し、春秋の永代経法要を御門徒の皆様と共に勤め、寺門護持や仏具等の購入経費に充当させて戴いています。今般の永代経法要では9名の御門徒物故者を御縁に、平成23年より28年春までに御懇志の御進納を賜り感謝の中に御法要を修行させて戴きました。本年秋の永代経法要は11月23日(水)に行いますので、皆様のご参拝をお願い申し上げます。

# 見真大師降誕会法要 6月18日

あす おも るころ あだぎくら  
明日ありと 思う心の仇桜

よ わ あらし ふ  
夜半に嵐の 吹かぬものかは

親鸞聖人が詠まれたと伝わる和歌です。聖人が9歳の時、仏門に入られる決心をされ天台座主である慈円を訪ねましたが、すでに夜だったので「明日の朝になったら得度の式をしましょう」と言われました。しかし聖人は「明日まで待てません」と仰せられ、詠まれたのがこの歌と伝わっています。この歌の意味は、「今美しく咲いている桜を、明日も見ることができらるうと安心している」と、夜半に強い風が吹いて散ってしまうかもしれない」ということ



左、能量寺様 右、信教寺様



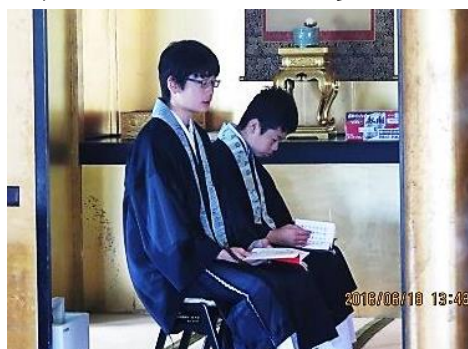
左、生振寺様 右、永泉寺様

は、聖人の「今の命を生きる」ことへの強固な思いの賜物でありましょう。親鸞聖人のお誕生に感謝を申し上げます。見真大師親鸞聖人降誕会法要が、石狩真宗連合会員御寺院の皆様参集のもと営まれました。



札幌医大室内楽合奏団の皆さん

法要後には初めて『札幌医科大学室内楽合奏団』の皆さんにお越し頂き、「ふるさと」や「上を向いて歩こう」、「情熱大陸」等々のお馴染みの楽曲をアンコールを含め9曲をヴァイオリンやチェロの演奏で花を添えて頂きました。



又、当日は、2人の息子も出勤致しました。お陰様で長男は今春、浄土真宗の宗門校である「札幌龍谷高校」へ入学し、御門徒御一同様よりご祝儀を賜りました事、深く感謝を申し上げます。父としても気が引き締まる思いです。  
左が住職の長男(高1)、右が次男(小6)です。

## 日 帰 り 研 修 旅 行 6 月 25 日

本年の日帰り研修旅行は総勢 21 名で赤平市、本恵寺様参拝と北空知方面を周遊してまいりました。本堂で出発のお参りを済ませ、道の駅で休憩をとりながら先ずは赤平の本恵寺様へ向かいました。本恵寺様の前住職が当光明寺の前住職の弟であり、



したがって双方の現住職はいとこ同士という親戚寺院に当たります。前号でお知らせの通り本恵寺様前住職の西井芳信師が昨年 9 月に御往生され、追悼の思いを込め参拝を致しました。御住職より本恵寺様の縁起を聞かせて頂き、参加者一人一人にお土産を賜る等大変な歓待を受け、恐縮の中お寺を後にしました。続いて歌志内温泉チロルの湯で昼食と入浴でゆ



っくり過ごして戴き、併設の「道の駅うたしない」での爆買いで日頃のうっ憤を晴らし？次に赤平オーキッドへ立ち寄りしました。赤平オーキッドは胡蝶蘭の生産、販売は東北以北では最大の規模を誇り、出荷を控えた膨大な数と色とりどりの花の前に皆絶句、花を見たさに立ち入り禁止場所へ足を踏み入れ

る方がいたと思えば、家で留守番の奥さんへの機嫌取りにと買い求める方とそれぞれでした。最後に砂川ハイウェイオアシスで休憩と買い物の後、一路高岡へ向かいました。当日は予報通りの降雨の中でしたが、バスの中では一杯傾ける人や話に夢中の人と参加者には全くカンケーナイ様子で、帰りのバスの中では恒例となった景品争奪のくじ引きや、余った飲み物を賭けてジャンケン大会で大変盛り上がりながら全員無事に光明寺に到着、解散となり皆様の御協力により大変楽しく有意義な時間を共に過ごさせて戴きました。来年も皆様に楽しくゆったりと過ごして戴ける行程を提案致しますので沢山のご参加をお待ち申し上げます。



平成 28～29 年のご法座、行事予定

平成 28 年		
10月21日(金)	午後 1 時	報 恩 講 前 日 準 備
10月22日(土) ~23日(日)		宗 祖 親 鸞 聖 人 報 恩 講 布教、島根県善正寺 齋 藤 断 城 師
10月22日(土)	午後 1 時 30 分	納 骨 堂 総 追 悼 法 要
11月23日(水)	午後 1 時	秋 季 永 代 経 法 座 布教、札幌市覚英寺黒 田 顕 城 師
平成 29 年		
1月15日(日)	午後 1 時	宗 祖 親 鸞 聖 人 <sup>ごしょうき</sup> 御正忌 法 座
1月16日(月)	午前 11 時	宗 祖 親 鸞 聖 人 御 正 忌 法 座 満 座 お齋のご接待
1月16日(月)	午後 1 時 30 分	光 明 寺 定 期 総 会 、 新 年 会

門信徒皆様のお寺です。自分一人の為の仏縁に出会いましょう。

皆様のお参りをお待ち申し上げます。

**後記** 最後までお読み頂き有難うございました。住職を務めていて何よりも嬉しいのは、普段はお寺に足の遠い方がお参りに見えた時です。今後もお寺では誰でもお参り頂けるよう法要や行事を予定してお待ちしていますので、皆様の御先祖が護持下さった光明寺へ気軽にお越しください。 文責=住